

テーマ

幼稚園・小学校の子どもを中心にした つながり合える連携の在り方

港南台第三地区

かもめ幼稚園

横浜市立港南台第三小学校

推進テーマ設定の理由

小学校入学前のアプローチカリキュラムと入学後のスタートカリキュラムとがさらにつながり、架け橋期に、それぞれの教育機関がどのような教育を行い、どのようなことを大切に子どもたちの育ちを支援しているのかを共有したり、見直しや改善を図ったりしていくことで、子どもたちは安心して生活を送ることができると思います。また、子どもを中心にした交流を積み重ねることで、たとえ入学先が違っていても優しい上級生が待っていてくれると安心感を感じて入学を迎えることができると思います。



推進内容

- ①互恵性のある子どもとの交流
- ②環境構成の工夫
- ③園と小学校との持続可能な連携体制の確立

今年度の重点課題 ～今年度力を入れたこと～

○ペアを決めて、繰り返し関わる

○環境構成(先生の関わり、環境づくり)

○職員同士の連携



ペア決め



年長担任と相談して、年間を通して交流する年長児と1年生のペア決めを行いました。

ペアを決めることで、1年生は相手意識をはっきりとさせて交流の準備をしたり、振り返りをして次の活動へ生かしたりすることができました。年長児も、ペアの1年生の顔や名前を覚え、安心して活動している様子が見られました。

☆1年間の交流に対する意欲の高まりや動機付け

☆安心感

☆ペアを意識した交流活動

(園児との双方向的な関わりの充実)

〇〇さんは、体をうごかすことが好きだから、ジャングルジムと一緒に遊ぼうかな。運動場で、かけっこもしたいな。

〇〇さんは、折り紙が好きって言っていたから、一緒に折り紙でいろいろつくって遊ぼうかな。



給食交流

6年生の日光修学旅行の日に実施しました。スタートカリキュラムのときと同じように、スプーンも付けてもらいました。

給食交流に向けて

～幼稚園～

- 園児の食物アレルギーの再確認
- 給食交流日の決定・献立の確認
- 保護者へのお知らせ
- 緊急時の対応の確認

給食交流に向けて

～小学校～

- 栄養士と調理員さんへの依頼
- 給食交流日の職員のサポート依頼
- 候補日と献立の確認
- 緊急時の対応の確認

○学校便りでも、給食交流についてお知らせしました。

【子どもたちの感想】

- ・お弁当もおいしいけれど、給食は温かいからすごくおいしかったです。
- ・いつもは残してしまうけれど、おいしかったから全部食べられました。
- ・おかわりができてうれしかったです。
- ・1年生になって、また給食を食べるのが楽しみです。



繰り返し関わる

～互惠性のある交流～

同じ活動を繰り返すことで、1年生も年長児も自分自身の変容に気付きやすかったです。

- 1年生と仲よくなれた。
みんな優しい。
- 学校という場所に慣れた。
- 学校も幼稚園も同じところが結構ある。
- 困ったときには、教えてくれる。



- ペア園児の思いを受け止め、関わり方を考える姿
- 自分の関わり方次第で、関係性がよい方向へ変わること気付く姿
- 身近な人々と関わるよさに気付く姿



生活科

内容(8)生活や出来事の伝え合い
「ねんちょうさんとなかよし」
～なかよしダイヤモンド大きくせん～

○なかよしダイヤモンド大作戦①

- ・学校探検

○なかよしダイヤモンド大作戦②

- ・学校クイズや遊び

○なかよしダイヤモンド大作戦③

- ・学校クイズや遊び(給食交流)

- ・小学校には、こんなに優しいお兄さんやお姉さんがいるんだ。
- ・ぼくたちの入学を、楽しみに待っていてくれているんだ。
- ・困ったときには、すぐに助けてくれた。



☆無自覚→自覚化
☆気付きの質の高まり

- ・思っていたように楽しくできた。
 - ・困った。大変だった。
 - ・年長さんも楽しみにしていたんだ。
- ペアのことをもっと知って、もっとなかよしになりたいな。

- ・ペアの年長さんに合うクイズだったから、楽しんでくれてうれしい。
- ・関わり方を変えたら、しっかり聞いてくれた。やさしい気持ちで待てるようになった。
- ・相手の気持ちを考えられるようになった。

ペアのことを知ったから、もっとなかよしになれたよ。給食交流もあるから、もっと楽しんでなかよしになりたいな。



環境構成

～先生の関わり～

年長児や1年生にとって、先生の関わりは、とても重要です。幼稚園の先生は、園児に対する関わり方を見ていると、見守りやサポートの仕方がとても参考になりました。豊かな表情で園児と一緒に喜び、成長を認めたり、頑張りを認めたりする関わり方は、小学校の低学年の職員も真似したいところです。また、いろいろな職員が積極的に声をかけたり、関わったりしているところも安心・安全につながっていて、多くの目で見守ってもらっているという安心感につながっていました。

また、1年生から学校探検の招待状をもらった経験を生かし、年長児が梅ジュースを作ったときに、招待状を作って園の友達に届けるという活動につなげることもできました。

豊かな表情

肯定的な声かけ
よさや頑張りの価値付け



見守り
適切なタイミングで支援やサポート

- ☆活躍の場の確保
- ☆可能性を引き出す
- ☆子ども同士の考えや学び（遊び）をつなぐ
- ☆関わり方の手本
- ☆友達との交流を促す
- ☆子ども同士の認め合い
- ☆困ったら手伝ってくれる・
助けてくれる安心感
- ☆信頼感

梅ジュースが
できたよ！



幼稚園のみんなにも、
飲んでほしいな。
どう伝えようかな？

一人ひとりの
パワーアップ！
↓
集団のパワーアップ！！

1年生が学校探検の招待状を届けてくれて、うれしかったよね。
わたしたちも、つくってみよう！

環境構成 ～環境づくり①～

○園と同じおもちゃ

<令和6年度購入>

○ラキュー

○カプラ

<令和7年度購入>

○マグ・フォーマー

○にこにこタイム

港南台第三小学校では、「なかよしタイム」「わくわくタイム」「ぐんぐんタイム」の他に、朝の支度が終わった子から、自由遊びができる「にこにこタイム」を昨年度より設けています。

にこにこタイムでは、絵本コーナーで自分が好きな本を読んだり、友達とおしゃべりしたり、おもちゃで遊んだりなど、自分がやりたいことをして過ごします。

☆友達づくりのきっかけ
☆安心感
☆「自分で選ぶ」を促す

絵本コーナー



マグ・フォーマー



こま・けん玉・お手玉



あやとり・ぬいえ

ラキュー・カプラ



環境構成 ～環境づくり②～

○学校キャラクターの活用



○低学年用跳び箱への工夫

☆安心感
☆楽しく学習

○学校キャラクター「にじピヨ」が見守ってくれているよ
校内のいろいろな場所にじピヨがいます。



○低学年用跳び箱へのイラスト

楽しく学習できるように、低学年用のミニ跳び箱に実行委員が考えたイラストを描きました。1年生が学校の共同絵の具で塗り、ニスを塗って仕上げました。楽しく活動することができ、イラストのおかげで、片付けに困ることもなくなりました。



環境構成 ～環境づくり③～

○入学式当日からグループ机

○朝の支度の見える化

○学校で保管する教科書

○安心して使えるくつ箱

○グループ机

入学式からグループの机でスタートしました。グループの机にすることで、自然に会話が生まれ、友達づくりのきっかけとなりました。

○朝の支度の見える化

黒板やロッカーの近くに貼っておくことで、見ながら支度をすることができました。

○学校で保管する教科書

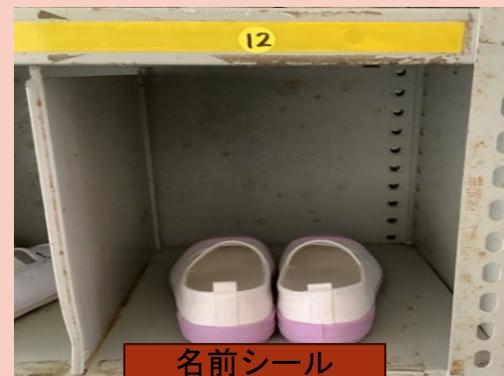
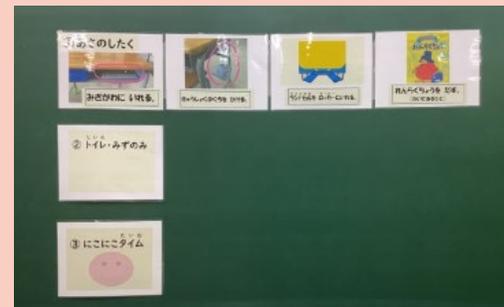
4月は、全ての教科書と自由帳を学校で保管し、使用するときボックスから取り出して使用しました。5月以降も、生活科や書写、道徳の教科書と自由帳は学校で保管し、使用するときに使いました。

○記名の工夫

ロッカーや廊下のフックの使い方で困る子は、少ないです。しかし、靴箱は似たような靴を履いている子も多く、上下での置き間違いや取り違いがよくあります。右の写真のようすることで、間違いずに安心して置くことができます。また、名前シールに合わせて置くように声をかければ、自然とかかところがそろいきれいに置くことができます。



☆安心感



職員同士の連携

- 子ども観の共有
- ちょっとしたことでも、
言いやすい関係づくり
- 行き来しやすい関係づくり
- 行事の参観



子ども観の共有

○架け橋カリキュラムデザインシートの活用

職員研修に年長担任にも参加してもらい、子ども観を共有しました。



連絡がとりやすい関係づくり

○言いやすい関係

「どうしようかな。」と思ったときに、聞いたり、打ち合わせたりできる関係になったことで、子どもたちの安心・安全につながりました。

行事の参観

運動会などの行事や授業参観を行いました。お互いの教育機関のさらなる理解へとつながりました。保護者に対しても職員が行き来していることを知ってもらうことができました。

成果と課題

【成果】

- 職員同士の顔が分かる関係になり、さらに連絡が取りやすくなった。また、一緒に子どもを育む同僚性も構築されてきている。
- 行事などでも職員が行き来している様子を幼稚園や小学校の保護者が見て、幼保小の連携についてさらに知らせることができた。また、保護者の安心感にもつながった。
- 年長児や小学生も、お互いが交流を楽しみにしている様子が見られた。互恵性のある交流を積み重ねることで、年長児も1年生もどちらも自分の成長に気付くことができた。
- 環境も整ってきた。年長児も、交流を積み重ねることで学校という場所に慣れることができた。やはり年長児にとっては、優しい上級生が入学を待っていてくれるということや、困ったときには、みんなが助けてくれるということが最大の安心感につながった。

【課題】

- かもめ幼稚園の他に、3つの保育園と交流をしている。幼稚園と保育園の年長児をつなぐことができれば、さらに園児の安心感につながっていくと考える。
- 幼保小の職員研修を今年度は実施した。次年度以降も継続して行い、学校全体で子どもに寄り添った教育活動ができるようにしていく必要がある。